

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### 新規受託項目

- [49009] T-SPOT.TB (インターフェロン- $\gamma$ 遊離試験)

#### 受託開始日

- 平成24年11月19日(月)

## T-SPOT.TB(インターフェロン- $\gamma$ 遊離試験)

日本の結核罹患率は、人口10万人あたり17.7人(平成23年集計結果)と報告されており、欧米諸国と比べ4倍程度高く、特に高齢者を含め免疫抑制状態の人々に高い傾向があります。結核の診断は培養などによる結核菌の検出により確定されますが、結核菌の感染については、従来ツベルクリン反応で確認されてきました。しかし、ツベルクリン反応による検査は侵襲的であり、さらに用いられる抗原の特異性の面からBCG接種や非結核性抗酸菌に対する交差反応などが問題視されていました。

近年、新しい結核菌感染の確認検査としてInterferon-Gamma Release Assay (IGRA) が注目を浴びています。本検査は結核菌特異抗原の刺激により、リンパ球が分泌するIFN- $\gamma$ 量から、結核菌の感染を判断するものです。

IGRAに属する「T-SPOT.TB」と呼ばれる検査は、特異的な結核菌抗原を用い、患者血液から分離した末梢血単核球数を正確に調整し検査を実施するため、血液中の共存物質の影響やリンパ球数の違いといった個人差の影響などを抑えることができます。そのため、投薬などにより免疫が抑制されている状態でも正確に感染を判断できるとされています。また、専用採血管を必要とせず健康診断を含め、日常の検査として取り入れやすいといった利点もあります。

### 検査要項

項目コード	49009
検査項目名	T-SPOT.TB(インターフェロン- $\gamma$ 遊離試験)
検体及び保存方法	ヘパリン加血液 9mL <sup>*1</sup> (常温) 〈容器番号:10〉
検査方法	ELISPOT(Enzyme Linked Immunospot)法
基準値	陰性
所要日数	3~4日
検査実施料	630点(D015の「25」結核菌特異的インターフェロン- $\gamma$ 産生能 <sup>*2</sup> )
判断料	144点(免疫学的検査判断料)
備考	<p>*1：検体量は9mLとしておりますが、これに満たない場合でも6mLをご提出いただければ検査実施可能です。しかしながら、ご提出いただいた検体から検査に十分な細胞(末梢血単核球)数が得られない場合は参考値または検査不能となる場合がございます。</p> <p>*2：適用条件 診察又は画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できます。</p> <p>●受託に関する注意点：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・連休前日の検査受託は出来ませんので、ご注意ください。</li><li>・採血後、規定時間内(32時間以内)に検査を実施する必要があります。</li><li>・依頼に際しましては、採取時間をご記入の上ご依頼下さい。</li><li>・健診等でまとまった数のご出検を希望される場合には、予め出検予定日を担当営業員にご連絡下さい。</li></ul> <p>詳細は弊社営業担当者までお問い合わせ下さい。</p>

### 参考文献

原田 登之, 他: モダンメディア, 54(5), 148-53, 2008.